

善光寺霊園ニユース

横浜やすらぎの郷霊園

◇まあるいこころ やすらぎのこころ

昨年三月、やすらぎの郷霊園に大きなモニユメントが完成致しました。進入路からも大きく見える赤い球体。その下には色とりどりの花々が咲いて、お墓参りにお越しいただく皆さまをお迎えいたします。

これは、その前年に晋山式を行い、法燈を高く上げられた善光寺黒田博志方丈の記念モニユメント。

「師父先代住職のこころをこころとして、精進して参ります」と語る博志方丈。

善光寺開創以来永年の念願であった霊園として誕生した横浜やすらぎの郷霊園。

先代住職は霊園の理念を「こころの拠り所、こころのやすらぎ場所」とし、「ゆりかごからやすらぎの郷まで、この郷が安心・平和・幸福感を抱く素晴らしいところだと言われるように心尽くす」と誓願されました。この「こころ」こそが「赤く燃えるこころ まあるいこころ、やすらぎのこころ」です。



宗派や国籍、年齢にとらわれずにお互いが理解しあい、調和できればきつと平和な世界、地球上全ての国、人々に幸せをもたらすことができるはず。一人ひとりのまあるいところ、ころのやすらぎが世界平和に繋がっている。無縁ではなく有縁の場所、それぞれが様々なご縁を感じることが出来る郷のシンボルを赤い球体で表しました。どうぞみなさまやすらぎにお越し下さい。

「手を合わす やすらぎの郷 風さやか」

（大乘寺山主東隆眞老師

平成十一年のやすらぎの郷開園式にて）

◇「ほとけに親しむ」

やすらぎ寺子屋 開催

昨年四月より霊園管理事務所において月に一度やすらぎ寺子屋を始めました。お釈迦さまや祖師のお言葉に触れる機会を通し、共に学びあい、仏の教えを日常に取り入れて、心やすらかに日々を過ごすことができる、そのきっかけとなればと思います。

約一時間の前半は椅子坐禅。後半は法話。その後、茶話会となります。まだ十数名の小さな会ですが、和やかに開催しています。お気軽にお問合せ下さい。ご参加お待ちしております。



寺子屋参加者ご感想（アンケートより）

○仏教は近くて遠いものを感じます。この会に遠い距離を近づけて頂ける気がします。

（第一回参加者）

○心落ち着く時間をすごさせて頂いています。日常あわただしく過ごしているのでこのような時間は大変貴重だと思っています。

（第二回参加者）

○毎日、バタバタと過ぎ、一度止まって考える事が必要なと思いました。

（第八回参加者）

○坐禅でリラックスすることが出来るようになりました。前日も夜ぐっすり眠れました。法話もわかりやすくしてお経を読むときにさらに心をこめてできそうです。

（第十一回参加者）

☆皆さまご参加ありがとうございます。☆



寺子屋 予定

▽7/7 (土) ▽8/5 (日)

▽9/8 (土) ▽10/14 (日)

▽11/10 (土) ▽12/8 (土)

毎回 午後二時から やすらぎの郷霊園



◇ やすらぎ通信

やすらぎの郷霊園では年に四回『やすらぎ通信』を発刊しています。霊園からのお知らせや善光寺の行事紹介などその時々話題を掲載しています。

こころは丸く

智に働けば角がたつ
情に棹させば流される
意地を通せば窮屈だ

(夏目漱石『草枕』より)

昔から、人の世、人間関係は微妙なものですね。古人はこんな言葉で処世術を語りました。「人を大きく上にして、心は丸く 気は長く 腹は立てずに横にして 己は小さく下にあれ

また、

「気は長く 心は丸く 腹立てず

口慎めば 命長かれ」



俺が、私が(俺のおかげで…、私がいるから…)の我(が)が角になると、凸凹して中々丸くはなりません。○(まる)は角のない大きな心、仏さまの慈悲のお心、大きく圓か(まどか)にやわらかな心を表します。

『短気は損気』（たんきはそんき）この言葉はやすらぎの郷にお墓を持たれているある方から教えていただいた言葉です。子供六人を育て上げたお母さんが口癖にしていた言葉との事。どっしりと構えてニコニコ笑顔のお母さん。六人の子育てはさぞ大変であったかと思いますが、この言葉を口にして心を穏やかに保っていたそうです。亡くなられた今もその心は受け継がれて、仲良くお墓参りされる姿が見受けられます。ちよつとした事で腹を立てずに、この言葉を口にしてこころまるく生きたいなあ。 合掌

（『やすらぎ通信』23号 平成23年秋彼岸号より）

竜（りゅう）をみたことはありませんか？

平成二十三年十一月に国賓として来日されたブータンのワンチュク国王夫妻。十月にご結婚、

その爽やかさが連日報道され話題になっていました。国民の幸福度が高い国として知られるブータン王国。

六日間の滞在期間中には国王の希望で東日本大震災の被災地にも赴かれています。福島県相馬市の小学校を訪れた際に子供たちに向かって問いかけられた言葉が印象的でした。

「君たちは竜を見たことがありますか？」

「私は見たことがあります」

驚く子供たちに向かって国王は言葉が続けます。

「竜は一人ひとりの心の中にいます。私たちは人格という名の竜をもっています。竜は私たちみんなの心の中にいて経験を食べて成長します。年を重ねることによってその竜は大きく、強くなります。そして何よりも大切なことは自分の感情・湧いてくるものをコントロールして生きていくことが大事です。どうか皆さん一人ひとり自分の竜を養い、鍛錬して大きく素晴ら

しく育てていつて欲しい」

ブータンに伝わる竜の話をされる国王の隣で、「この次、日本に来るときもまたこの学校に来ることを約束します」と笑顔で語られた王妃。なんて素敵な笑顔をされている人たちだろうと感じました。

自分の竜を養う。経験することによって生じる感情に左右されない心を養うことが大切。つらく悲しい経験が襲ってきても、それに負けない竜を育んで欲しい。

ブータンでは国民総生産（GNP）ではなく国民総幸福量（GNH: Gross National Happiness）の増加を政策の中心としてゐるそうです。物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさ、国民の幸せを指す。

幸せといわれても漠然として人それぞれで価値観は異なりますが、だれもが幸せになりたいとは思いませんよね。どこで幸せを感じるのか。

どのような時に幸せを感じるのか。幸せってなんだろうと考えさせられました。今年一年皆さまにとつて幸多き年となりますよう、心よりご祈念申し上げます。

合掌

〔「やすらぎ通信」24号 平成24年お正月号より〕

公式ホームページ

横浜やすらぎの郷霊園の公式ホームページが開設されました。

霊園からのお知らせやすらぎ通信など随時更新していきます。是非ご覧頂きご意見などお送り下さい。

URL : <http://www.y-yasuraginosato.jp>

Eメール : info@y-yasuraginosato.jp

